

資料1 文化財等時代変遷表

時代	旧石器時代	縄文時代 [紀元前1万 4000年頃 ~ 紀 元前300年頃]	弥生時代 [~ 250年頃]	古墳時代 [~ 600年代の 末頃]	飛鳥時代 [~ 710年]	奈良時代 [~ 794年]	平安時代 [~ 1185年]	鎌倉時代 [~ 1333年]	室町時代 [~ 1573年]	安土桃山時代 [~ 1603年]	江戸時代 [~ 1868年]	明治時代 [~ 1912年]	大正時代 [~ 1926 年]	昭和時代 [~ 1989年]	平成時代 [1989年 ~]	
文化財		縄文~弥生・古墳時代 下辻遺跡						鎌倉前期 明導寺阿弥陀堂(城泉寺) 1230 明導寺(城泉寺)七重石塔 1230 明導寺(城泉寺)九重石塔 1229 木造阿弥陀如来及両脇侍像(城泉寺) 1381 銅製罽口(城泉寺)								
		縄文~弥生・古墳時代 東方遺跡						鎌倉~江戸時代 古塔碑群(城泉寺)								
文化財								平安後期 木造天部形立像(八勝寺) 室町初期 木造薬師如来立像(八勝寺)	室町後期 八勝寺阿弥陀堂(厨子)		江戸時代成立 東方組太鼓踊り					
								鎌倉後期 木造十一面観音立像(宝陀寺) 室町初期 木造地藏菩薩立像(宝陀寺)	1490 木造阿弥陀如来及両脇侍像(八勝寺) 1469~1486 鉄製罽口(八勝寺)	1696 宝陀寺観音堂	1774 鉄製罽口(宝陀寺)					
文化財			弥生時代 下里遺跡							1573~1593 頃 御大師堂						
								平安後期 木造毘沙門天立像他(御大師堂)	1400 木造弘法大師座像(御大師堂)	1581 厨子及び須弥壇(御大師堂)						1925 明導寺本堂
文化財		縄文~古墳時代 米山遺跡								1575 板絵著色神像(御大師堂)						
									1467 木造男神座像(永岡大王社)		江戸時代 木造男女神像(永岡大王社)					
文化財		縄文~古墳時代 浅鹿野遺跡								室町後期 木造聖観音立像(上里町観音堂)						
								平・古城・湯前城跡			江戸時代 普門寺観音堂					
文化財			弥生時代 上ノ段遺跡							1654 厨子・木造六観音座像・祈禱札(普門寺)						
									1472 球磨神楽		1724 里宮の手水鉢(里宮神社)					明治時代~ 浅鹿野棒踊り
文化財		縄文~古墳時代 長尾遺跡								1525~1623頃 上小原の五輪塔群						
								猪鹿倉城跡			1790 的場士休(自休)の墓					
文化財		旧石器時代 潮・クノ原遺跡						鎌倉後期~室町初期 小池家三重石塔 鎌倉後期~室町初期 林池家三重石塔			1693 平野の庚申塔 1709 永岡の猿田彦大神 1773 八王子神社石鳥居					1906 下町橋(石造橋)
											江戸時代 野地番所跡					
時代											1696~1705 幸野溝開削 1696~明治時代 幸野溝旧堰普請記念碑一括					1923 くま川鉄道湯前駅本屋 高橋川橋梁
											1646~1836 庚申塔・猿田彦大神などの石造物					

資料2 主要な歴史文化遺産

(1) 重要文化財

① 明導寺阿弥陀堂

町内の重要文化財は4件で、そのうち3件は明導寺阿弥陀堂に関連するものであり、古来浄心寺とよばれ、木造阿弥陀如来及両脇侍像は大正4年(1915)に国宝に指定された。

また、阿弥陀堂をはじめ境内にある七重石塔や九重石塔も昭和8年(1933)に国宝保存法により国宝となったが、後に昭和25年(1950)の文化財保護法施行に伴い、国宝保存法時代の「国宝」は、文化財保護法の規定による重要文化財に指定したものとされ、明導寺阿弥陀堂関連の文化財は重要文化財となっている。

明導寺阿弥陀堂は、堂内の木造阿弥陀如来及両脇侍像(重要文化財)の心棒に残る墨書銘から、鎌倉時代前期の寛喜元年(1229)頃に浄心によって建立されたことが分かっており、『球磨絵図』にもある通り、本来は「浄心寺」と号する。

梁間・桁行ともに3間、寄棟造で屋根は茅葺で三手先の組物を配し、扉は正面3間が全て棧唐戸となっている。熊本県内で現存する最古の木造建築として知られている。



写真1 明導寺阿弥陀堂周辺

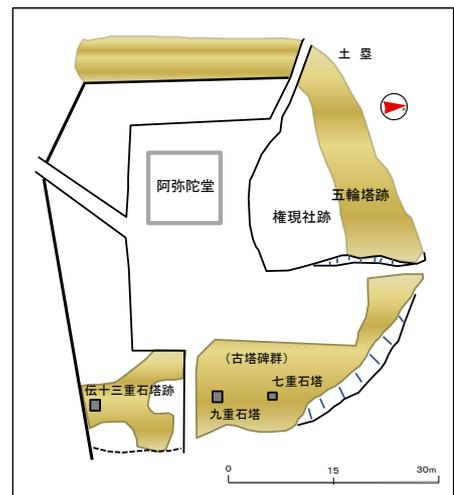


図1 境内配置図

また、木造阿弥陀如来及両脇侍像については、その作風から慶派^{けいは}とのつながりを指摘する声もある。すなわち心棒の墨書銘「日本国巧匠僧實明^{じつみょう}」は、康慶^{こうけい}の弟子とも、運慶^{うんけい}の次男康^{こう}

うん 運が改名したともいわれる肥後別当定慶一門の仏師であるとの指摘もあるほか、右脇侍（勢至菩薩）は、中尊（阿弥陀如来）及び左脇侍（観音菩薩）との作風の違いから、一門で實明より高位の仏師が手がけた可能性について指摘があり、肥後定慶について論じる際にも比較・検討の対象となりうるものとして、東京藝術大学大学院による研究の対象となるなど、近年注目されている文化財である。



写真2 明導寺阿弥陀堂



写真3 木造阿弥陀如来及両脇侍像

七重・九重石塔については、願主である浄心が自身の生前供養を目的に造った逆修塔であるといわれている。平成3年（1991）には十三重塔が住民たちの寄付などにより復原されている。現在十三重塔（重要文化財）は、八代市内に移築されている。）



写真4 七重石塔・九重石塔ほか



写真5 十三重塔（復原）

② 八勝寺阿弥陀堂

馬場区に所在する八勝寺阿弥陀堂は、東方北城跡の麓に西面して建ち、平成元年（1989）に『湯前の古建築』刊行に伴う調査をきっかけにひろく知られるようになり、平成14年

(2002)12月に重要文化財となった。平成24年度から26年度に実施した保存修理工事で、瓦葺から本来の茅葺に復原された。



写真6 復原前の八勝寺阿弥陀堂



写真7 八勝寺阿弥陀堂(現在)

堂内の厨子は内部の墨書銘「作者 賀^{がうん}咩」により、天正年間頃の作であることが分かっている。

また、厨子の大きさと堂内の天井の形状などから、他の堂宇から持ち込まれたものであることが保存修理工事で明らかとなった。



写真8 復原作業の状況



写真9 厨子

こうした堂宇は、主に願主やその一族の繁栄を願って建立されたと考えられ、一時ではあるものの、後に相良氏の菩提寺である願成寺(人吉市)の傘下にあったことや、江戸時代に明導寺阿弥陀堂と八勝寺阿弥陀堂が地域単位の「所修理」で行われていたことから、地域全体として保護に取り組んでいたことがうかがえ、人吉・球磨地域に多くの文化財が現存する大きな要因となっている。

③ 球磨神楽

重要無形民俗文化財となっている球磨神楽は、人吉・球磨地域で古くから球磨郡にのみ伝承される神楽であり、御幣ごへいや鈴、扇などを手にして舞う「採物舞とりものまい」で古風である。また、獅子以外は面を付けない「直面ひためん」である。神楽歌には古い歌が多く、現在は全 33 番のうち 17 番が伝承され、郡内の神社で舞われている。

人吉・球磨地方の神楽について、相良氏の年代記である『歴代私鑑れきだいし かん』によれば、第 12 代相良ためつく為統が文明 4 年（1472）、雨乞祈願のため青井宮（現在の青井阿蘇神社）に神楽を奏させたとあるのが初出とされ、雨乞や悪鬼退散、病氣平癒、諸願成就などを祈願する神楽がたびたび奉納されたことが記録に残る。

- 本町では市房山神宮里宮神社で、神社再建の昭和 9 年（1934）より宮司や氏子らにより舞われ、地元中学生への指導と伝承も行っており、11 月 15 日の秋祭りでは「大幣おおべい」、「神師かみすい」、「田楽」の 3 番を、4 人 1 組の 3 組で披露する。
- 市房山神宮里宮神社での、五穀豊穰感謝祭に関する球磨神楽の奉納は、この地域での奉納神楽の一つであると同時に、神社の祭礼行事としても重要な位置を占めるものである。
- 最近では、平成 28 年（2016）に地元の女子高校生たちを中心に結成された「YKJ（湯前神楽女子）」が、球磨神楽のすばらしさを広めようと、域内外の催事で舞を披露している。



写真 10 球磨神楽（市房山神宮里宮神社）



写真 11 球磨神楽（市房山神宮里宮神社）

(2) 主な県・町指定の文化財

熊本県指定文化財 4 件のうち 3 件は彫刻であり、1 件は工芸（城泉寺の銅製鰐口（わにぐち））である。また、町指定文化財は 39 件で、内訳を見ると、建造物が 10 件と最も多く、彫刻 8 件、工芸 5 件と続く。

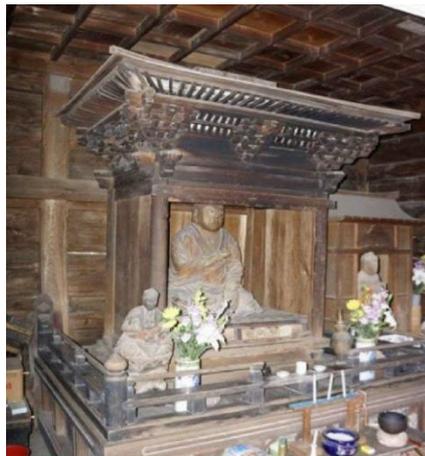


写真 12 木造弘法大師座像及厨子・須弥壇

これらの多くは、御大師堂や宝陀寺観音堂、八勝寺阿弥陀堂といった社寺に関連したもので、特に八勝寺阿弥陀堂の木造天部形立像と御大師堂の木造毘沙門天立像は平安後期の作といわれており、当地でも古くから仏教文化がおこっていたことを示している。

毘沙門天像は球磨地方に多く残されており、在地の領主が自分たちの領地を守ることを祈念して造ったり、南で境界を接する薩摩の隼人からの防御の意味で造立されたといわれている。一方、町指定の無形民俗文化財には、重要無形民俗文化財の「球磨神楽」同様、民俗文化財が指定されている。



写真 13 木造阿弥陀如来及両脇侍像（県指定）



写真 14 木造毘沙門天立像（町指定）

① 東方組太鼓踊り

「東方組太鼓踊り」は、九州南部、特に熊本県や宮崎県に残る臼太鼓踊りの一つとして本町に伝わるもので、臼に似た大型の太鼓を叩いて踊ることから、総称して「臼太鼓踊り」と呼ばれており、踊りの特徴としては、二手に分かれて臼太鼓と鉦を交互に打ち鳴らすところにある。

また、熊本県側では、主に合戦用の兜を被って踊るのに対し、宮崎県側は花飾りなどをのぼりに付けた「背負いもの」を付けて踊るなどの違いもみられる。

人吉・球磨地域における臼太鼓踊りの起源には諸説あり、長くこの地域を統治した相良氏が武道鍛錬・土気鼓舞を目的として始めたとも、あるいは豊年祭の十五夜踊りが飾りや囃子、舞踊を伴う風流ふうりゅうに発展したものともいわれている。

本町で古くより行われている東方組太鼓踊りは、源平合戦に材をとり、その唄は「東下り」の場面を表している。起源は不明であるが、太鼓の胴部に「宝永」や「安政」の銘が残されており、宝永2年（1705）に幸野溝が完成したのとほぼ時を同じくして、新田村の「東方村」が成立することから、東方村の成立と共にこの臼太鼓踊りも興ったものと考えられている。

雨乞いを祈念しての踊りは、主に旧東方村に所在する明導寺阿弥陀堂や八勝寺阿弥陀堂、馬場稻荷神社で踊られていることが、保存会所有の写真で確認できる。

元来、こうした地区の踊りは、代々地区の長男にのみ口伝で継承されてきたものであり、東方組太鼓踊りも例外ではなく人口の流出や踊り手の生活環境の変化などに伴い、後継者問題に直面し、こうした事態を打開しようと、保存会では昭和30年代後半頃から青年団に、また、総合的な学習の時間が採用された平成16年度からは地元中学生に踊りの指導と継承を行っている。



写真 15 明導寺阿弥陀堂境内での奉納



写真 16 神社境内での太鼓踊り奉納舞(平成)

【太鼓踊り唄（藤本幸男氏作成資料より）】

「音に聞えし判官は 東下りをなされるが その日のいでたち装束は ひとつよりすぐれて華やかに ひと緋緘ひおどしを
よろい
鎧よろい ぐさ 日本の武士とはかくなれし 東下りはやや見事」

出典：『湯前の文化財』

現在は 8 月頃から中学生への指導が始まり、町の総氏神的存在である市房山神宮里宮神社で毎年 11 月に行われる秋祭りにおける奉納舞踊を主にすえた活動となっている。平成 16 年当時保存会から指導を受けていた人たちも加わり、中学生や青年団の踊り手を指導し、後継者の確保に向けた取り組みを行っている。保存会とともに地域の内外を問わず、各地の催事に出演するなどしてその活動の幅を広げている。

② 浅鹿野棒踊り

浅鹿野棒踊りは棒を持って踊る風流系の民俗芸能である「棒踊り」の一つで、起源は慶長年間の薩摩国にあるとされ、現在も熊本、鹿児島、宮崎の各県にひろく残っている。通常棒の長さは六尺の場合が多く、これを互いに打ち合いながら踊りが行われ、棒踊りに用いる棒は、神霊の宿る聖なる用具の杖と同じ呪具じゆぐとしての性格をもち、これを振ったり打ち合わせることで悪霊を鎮めたり祓う効果があるとされている。

一方で、武術の一種である棒術との関連において、人吉・球磨地域に伝わる平家の落人伝説を背景に、大人と子どもが共に戦に備える事を踊りの主意とし、村落の青年の鍛錬と自衛の手段の意義とを兼ね備えているともいわれている。

『湯前の文化財』によると、浅鹿野棒踊りは、本町の浅鹿野地区を中心として踊られているもので、明治 38 年頃（1905）に林田芳太郎が、現在の多良木町久米前原で習い伝えたものが起源といわれている。

踊りの主意から、六尺棒を持つ大人 4 人、鎌を持つ子ども 2 人を 1 組とし、3 組 18 人が三味線や太鼓、笛や唄に合わせて踊り、演目は「道あけ」「鎌倉」「次源次棒揃じげんじぼうそろえ」

「太刀棒揃たちぼうそろえ」「帰唄」が基本的な構成となっている。

基本的に口伝による継承であり、踊り手も浅鹿野区の長男に限定され、浅鹿野区の集落内で盛んに修練されているものであったが、昭和 44 年（1969）に東方組太鼓踊りと共に町の無形民俗文化財となったことをきっかけに、町の民俗芸能として里宮神社での奉納舞が行われるようになった。

【棒踊り唄（太刀棒揃）】

「さらばこれから口説いてみましょ 急げ急げと気をもむほどに 急ぎやほどなくオクメの館 夜のことから門
せきつめて 門がせかれればケツメも立たぬ そこで貞七利発な人よ 裏にまわりて へいがき超えて 下女を頼
んで ひと間を忍ぶ ひと間忍べば次の間忍ぶ 次の間忍べば中の間忍ぶ 中の間忍べば奥の間忍ぶ 奥の間忍
べばヤヨの間忍ぶ ヤヨの間忍べば障子のござる 障子ひとえをすかして見れば さてもきびしやオクメの寝間
よ」

出典：『湯前の文化財』



写真 17 神社境内での棒踊り奉納舞（昭和期）

写真 18 神社境内での棒踊り奉納舞（平成）

③ 球磨拳

球磨拳(くまけん) は、2人で行う「じゃんけん」に似たもので、宴席の座興として現在も
行われている。参勤交代の折、藩主相良家の江戸屋敷で家来衆が行っていたとも言われ、
家来衆の部屋が屋敷の北の部分にあったため、「北小屋拳」または「きたごや」とも言われ
ている。

出す拳の種類は6種類となっており、勝ち負けにより焼酎を飲む量も大きく変わる。中には
焼酎呑みたさにわざと負け続ける人もおり、こうした光景は周囲の笑いを誘う。

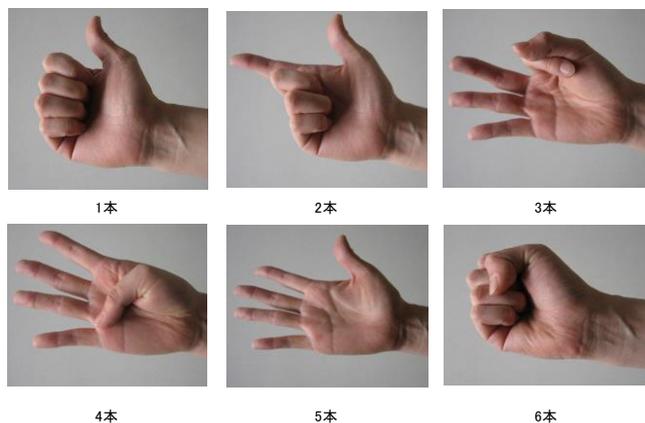


写真 19 球磨拳

(3) 登録有形文化財

登録有形文化財としては、教会風の外観をもつ明導寺本堂と大正 13 年 (1924) の国鉄湯前線開通時からほぼ当時の姿を残すくま川鉄道湯前駅本屋、高橋川橋梁^{きょうりょう}の 3 件が選ばれている。

① 明導寺本堂

明導寺は、明治 14 年 (1925) に熊本県下益城郡^{しもましき}から町内染田区に移転建立された浄土真宗本願寺派の寺院であり、大正 12 年 (1923) 当時の寺域が狭かったことから、現在の上里区へ大正 15 年 (1926) に移転している。明導寺阿弥陀堂は、この明導寺の飛地境内となっている。基礎はコンクリートで腰を煉瓦積みとし、壁は南京下見坂張りの外壁にマンサード屋根 (折れ曲がった屋根) を架けた、左右対称の外観となっている。

入り口は妻入りで正面玄関には切妻屋根を設け、軸組の間に煉瓦などを組み込むハーフティンバー様式を採用し、ゴシック風尖頭アーチの上げ下げ窓やガラス板をブラインドの様に配したルーバー窓も特徴的となっており、大正 12 年(1923)に起きた関東大震災の教訓から、耐震も考慮した設計であるといわれている。

こうした随所に洋風建築の技法を採り入れた特徴ある外観から、平成 10 年 (1998) に国の登録有形文化財となった。



写真 20 明導寺本堂



写真 21 明導寺本堂 (側面)

② 湯前駅本屋及び高橋川橋梁

湯前駅本屋は大正 13 年 (1924) に開業した湯前線の駅舎として建てられた。桁行約 19m、梁間約 4.5m で、ホーム側の屋根はそのまま葺き下ろされ^{ひさし}庇状になる。背面には^{へいそく}閉塞取扱所を張り出し、外壁は南京下見板張で、切妻の屋根を掛ける。

内部は事務室と昭和3年(1928)に増築された待合室があり、出札口と送荷窓口を間仕切とする。駅舎の柱にはかつてのレールを再利用した部分もみられ、現在のレールとの大きさの違いを比べることができる。

高橋川橋梁は湯前駅を出て約300m人吉方向へ進んだ場所に架かり、駅舎同様開業時から現存する施設で、明治42年(1909)の鉄道省通達による設計となっている。



写真 22 くま川鉄道湯前駅本屋



写真 23 くま川鉄道高橋川橋梁

現在も、くま川鉄道湯前駅として、ほぼ開業当初からの姿を残し、平成26年(2014)に登録有形文化財となった。周辺には明治期からの建造物が数件残っており、駅前の広場では、市房山神宮里宮神社の春季大祭で行われる神輿巡行の最大の見せ場ともなっている。



写真 24 駅構内



写真 25 駅周辺の建造物

(4) 未指定の歴史文化遺産

① 市房山神宮里宮神社

市房山神宮里宮神社は、町内の下城地区にある湯前城跡に建つ神社で、創建は昭和9年(1934)であるが、その由緒は16世紀に遡り、市房山信仰は市房山を御神体とする山岳信

仰で、同じく阿蘇山を御神体とした阿蘇山信仰と共に、県内で大いに栄えた山岳信仰である。

大同2年(807)年に創建された水上村に位置する山中の本宮、山麓の一の宮神社(中宮)に加え、本町に位置する里宮神社(下宮)の3社で構成されており、『球磨郡神社記』によると、市房山神宮里宮神社は、古来より市房山を御神体として信仰していた市房山神宮の別当寺として、現在の水上村に建てられた普門寺を起源にもつ。



写真 26 市房山神宮里宮神社本殿



写真 27 市房山神宮里宮神社拝殿

普門寺は、はじめ湯山に建てられ、のちに岩野に移りいわゆる「猫寺騒動」(※コラムで後述)で焼失した後、江戸時代に現在の場所である湯前城跡に再興された。



写真 28 『球磨絵図』写に見る普門寺周辺(人吉市教育委員会所蔵)

こうした祟りから逃れるため、盛譽と玖月善女、玉垂の霊を鎮めるために普門寺跡に建てられたのが生善院であり、普門寺は湯前城跡に移され、毎年3月16日には、15日の市房山神宮参詣とともに両寺への参詣を命じ、藩主もこれを実行したことで、祟りも消えたという。

こうして歴代の人吉藩主から領民まで身分の別なく市房山に参詣する「お嶽さん参り」が盛んとなってからは大いに賑わいを見せていた。

江戸時代には隆盛を迎えた普門寺であったが、神仏分離により明治時代には衰退し、里宮神社の遥拝所^{ようはいじょ}だけが残された。明治16年(1883)の火災による焼失を経た後、昭和9年(1934)、市房山神宮里宮神社として地元の寄付等により再建している。

なお、平成29年(2017)4月に「お嶽さん参り」との関連において、「市房山神宮下宮(里宮神社)」として「日本遺産」構成文化財に追加認定された。

○コラム 猫寺騒動

猫寺騒動は、普門寺が岩野(現在の水上村)に所在していた天正9年(1581)に起きた相良氏の内紛と、その後の相良氏を襲った猫の祟りにまつわる悲劇である。

相良氏は当時、薩摩の島津氏と戦闘状態にあり、第18代義陽^{よしひ}を失い、弱冠10才の忠房^{ただふさ}を当主に据え、次男の長毎^{ながつね}を島津氏へ人質として差し出すなど家中が安泰ではなかった。

こうした中、義陽と仲の悪かった腹違いの弟頼貞^{よりさだ}が多良木を訪れた際、出城であった湯山城の城主、湯山佐渡守宗昌^{ゆやまさどのかみむねまさ}が弟の普門寺住職盛譽法印^{せいよほういん}を連れ立って頼貞と会い、先代義陽への哀悼の意を伝えたという。

このとき、宗昌をよく思わない人びとが義陽と頼貞の関係を利用し、「湯山佐渡守と盛譽法印が頼貞とともに薩摩に協力し、領内へ攻め入ってくる」との偽の情報を流した。

この報に接した当主忠房の姉は家臣と対応を協議。米良の黒木千衛門^{くろぎせんえもん}を大将に、米良や須木^{すき}(宮崎県)方面の武士たちに天正10年(1582)3月16日に普門寺への総攻撃を命じた。

一方、偽情報を流した武士は、自分たちの情報が嘘だと発覚すると、早駆けの犬童九介^{いんどうくすけ}が攻撃中止を知らせる使いになると考え、「人吉から馬で来る者は無類の酒(焼酎)好きであるので、水を所望されたら酒を出すように。」とのお触れを出した。

普門寺攻めの前日、家老の深水宗方は、湯山佐渡守は何を考えているか分からないが、盛譽法印は仏に仕える身であるので、これに危害を加えることはできないと判断。攻撃中止を決め、犬童九介を普門寺へ向かわせた。

九介は道中、免田めんだの築地ついでで喉が渇き、水を求めて茶屋へ行ったところ、住人が「この者がお触れにあった酒好きだろう。」と思い、大きな湯呑みで焼酎を何杯も飲ませた。泥酔した九介は先の多良木までは着いたものの、馬に乗ることも自分で歩くこともできずに道端に寝込んでしまった。

宗昌と盛譽は自分たちに追討令が出されたのを知り、二人とも逃げれば反逆が事実と見なされるので、宗昌が日向へ逃げ、盛譽は寺に残った。

3月16日未明、中止の連絡が届かなかった千衛門は、直ちに普門寺への攻撃を開始。止める弟子たちを切り捨て、勤行中の盛譽を後から何も言わず切り、寺に火を放った。

寺が燃え上がった頃に九介もたどり着いたが、自分のせいで盛譽を死なせたと思い、忠房へ事の次第を報告し、切腹した。

盛譽の母玖月善女くげつぜんによは、このことを大いに恨み、愛猫玉垂たまたれをつれて市房山にこもり、自分の指を噛み切って神像に塗りつけ、滴る血を玉垂に舐めさせ、怨霊となって千衛門をはじめとした相良氏を祟るよう言い含め、21日間の断食の後、茂間もまが淵ふちに玉垂を抱いて身を投げた。

その後家中では、玉垂が毎夜忠房の枕元に現れ、千衛門は発狂して悲愴な最期を遂げるなど、奇妙なことが続いたという。

② 潮 神 社

潮神社は町中央部の野中田区に位置する神社であり、主神は日子波限建うがやふきあえずのみこと鵜草葺不合命で、宮崎県の鵜戸神宮と同一である。社殿の改築は100年に1度行われており、明治期の改築では、町内に限らずひろく球磨一円からの寄付があった。また、古くからお乳を模した作り物（お供え物）を作って参拝すると、お乳の出が良くなるといわれている。

社殿の周囲には樹齢100年を超えるクスやスギの巨木がそびえ立ち、その脇にかんがい用の人工溜池（潮溜池）があり、昭和60年（1985）には、潮溜池を挟んだ対岸に長崎県郷ノ浦町（現壱岐市）の塞神社から分祀された塞神社が商工会により建てられた。この頃は地元の商工会などが塞神社を分祀することが全国的なブームとなっていたようで、町でもその流れに乗っていたことを物語っている。

潮神社の位置する一帯は「潮山^{うしおやま}」という地名で、湧水に微量の塩分（海水の約10分の1）が含まれていることに由来する、山の中で塩が出ると大変珍重されたほか、潮溜池にはかつて鉱泉があり、明治の頃まで湯治場として栄えたといわれる。平成に入り近くの泉源掘削により「ゆのまえ温泉湯楽里^{ゆらり}」が整備され、山中に湧く塩湯を目当てに訪れる人も多い。



写真 29 潮神社外観



写真 30 潮神社内部

湯前町教育委員会において、旧石器時代の文化財包蔵地から明治期に建造された下町橋（石橋）までをまとめ、湯前町文化財（遺跡）分布図として以下のように整理している

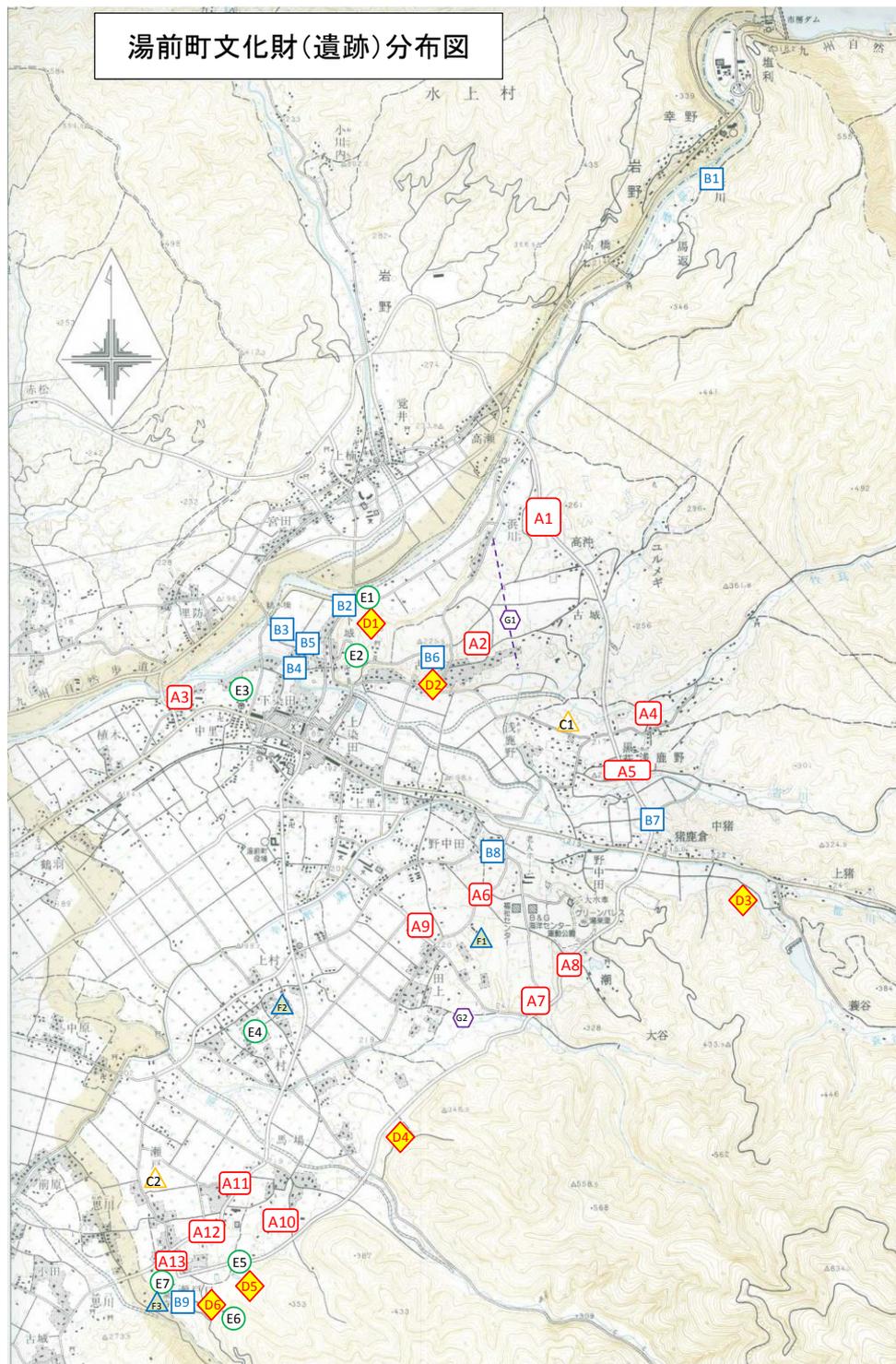


図2 湯前町文化財（遺跡）分布図

文化財(遺跡)一覧表

番号	種別	名称(遺跡名)	所在地(字)	内容
A1	散布地	米山遺跡	米山、北高沖	縄文早・中期、弥生(免田)等
A2	散布地	古城遺跡	上・下横道	縄文、須恵器
A3	散布地	下里遺跡	後原	十字型石器、弥生(石包丁)等
A4	散布地	牧良遺跡	西牧良	縄文(注口土器)等
A5	散布地	上ノ段遺跡	上ノ段	縄文、弥生(石包丁)等
A6	散布地	下長尾遺跡	上高尾・下長尾	縄文、弥生
A7	散布地	クノ原遺跡	上長尾	旧石器～縄文
A8	散布地	潮山遺跡	上長尾	旧石器～縄文
A9	散布地	深田遺跡	深田	縄文
A10	散布地	平野遺跡	平野	勾玉
A11	散布地	下堀田遺跡	下堀田・下馬場	縄文
A12	散布地	上辻遺跡	上辻	縄文早期
A13	散布地	下辻(浄心寺跡)遺跡	下辻	挟状耳飾、勾玉、成川等
B1	石造物	幸野溝旧堰普請記念碑	馬返	江戸～明治
B2	石造物	的場自休墓	水ノ手	寛政二年
B3	石造物	普門寺墓地	下鶴	江戸
B4	石造物	下町橋	下城	明治39年
B5	石造物	林家三重石塔	下城	室町初期
B6	石造物	西光寺跡古墳群	下城	安土桃山～江戸
B7	石造物	上小原の五輪塔群	上小原	大永～元和
B8	石造物	小池家三重石塔	上仁良田	室町初期
B9	石造物	浄心寺古塔碑群	下辻	鎌倉～江戸
番号	種別	名称(遺跡名)	所在地(字)	内容
C1	古墳	浅鹿野古墳	黒萩	古墳時代
C2	古墳	東方古墳	上堀田	古墳時代
D1	中世城跡	湯前城跡	野首	東三河守直政
D2	中世城跡	平城跡	加古井	明治初期絵図
D3	中世城跡	猪鹿倉城跡	猪鹿倉山	米良氏か
D4	中世城跡	古城跡	中山ノ口	稲荷社
D5	中世城跡	東方北城跡	長谷場	城平(ジョウビラ)
D6	中世城跡	東方南城跡	久米川内白木川内	ハナミダシ、風の神
E1	社寺(跡)	大王社	永岡	文正二年(1467)銘神像
E2	社寺(跡)	普門寺跡	野首	湯前城跡
E3	社寺(跡)	御大師堂	後原	応永七年(1400)銘仏像
E4	社寺(跡)	下村阿弥陀堂	高別府	室町初期の仏像
E5	社寺(跡)	八勝寺	長谷場	室町初～中期の仏像
E6	社寺(跡)	宝陀寺	宝陀寺	南北朝期の仏像
E7	社寺(跡)	浄心寺	下辻	国指定、仏像・石塔・堂宇
F1	天然記念物	蛇ん谷	中長尾	湿原群落
F2	天然記念物	毘沙門の桜	中村	毘沙門堂
F3	天然記念物	権現やばの高野槇	下辻	権現社跡
G1	その他	田上竊跡	田ノ上	天保年間
G2	その他	幸野溝隧道	古城	宝永二年(1705)

資料3 地区別行事一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全域	湯前潮おっばい祭	里宮神社春季大祭			湯前ぶどう祭	相良33観音めぐり 秋季一斉開帳		里宮神社秋季大祭 ゆのまえ 漫画フェスタ			人吉球磨はひなまつり(2月~3月) 湯前町手づくりのひなまつり ゆのまえ苺まつり	相良33観音めぐり 春季一斉開帳
浜川	水戸神社例祭			浜川・馬返地蔵祭	鐘の織	十五夜祭		永岡大王社例大祭	安牧・妙見社例大祭			
下城	的場士休憩霊祭	里宮神社春季大祭				観音めぐりお接待 (普門寺)	鐘の織	里宮神社秋季大祭				観音めぐりお接待 (普門寺)
古城								地蔵祭			春地蔵祭	
浅鹿野						秋祈禱						春祈禱
牧良		御伊勢講		さなぼり	鐘の織	御伊勢講			牧良神社大祭	御伊勢講		祈禱時
上猪												
中猪						十五夜綱引				火の神祭		
野中田1	潮神社奉納祈願祭 おっばい祭			観音祭・地蔵祭		潮神社例祭			潮神社大祭			
野中田2		御伊勢講		阿弥陀祭・地蔵祭		潮神社例祭			潮神社例祭	御伊勢講		
野中田3					鐘の織	潮神社例祭			山の神・潮神社例祭			
田上	お釈迦祭			阿弥陀祭							稲荷初午祭	
上村	花祭		梅ちぎり	毘沙門祭・薬師ごや		春日講				御伊勢講	涅槃会法要	
下村				阿弥陀祭 (こども神輿)		みす織						
馬場		稲荷祭	水口参り・さなぼり	八勝寺例祭	鐘の織	八勝寺例祭	水口御礼参り	稲荷初午祭	八勝寺例祭	御伊勢講	氏神祭	稲荷祭 八勝寺例祭
山ノ口	御大師例祭		稲荷祭	さなぼり		稲荷秋大祭				稲荷初詣		稲荷初午祭
瀬戸口		梅ちぎり	祈禱時	薬師祭・祇園祭・ヤツノ		城泉寺法要 観音めぐりお接待 (宝陀寺)				御伊勢講		観音めぐりお接待 (宝陀寺)
辻			祈禱時			観音めぐりお接待 (上里まち観音堂)						観音めぐりお接待 (上里まち観音堂)
上里1												
上里2							鐘の織					
上里3				地蔵祭・不動尊		十五夜祭						火の祈禱
上染田					地蔵祭							
下染田						天神祭	鐘の織					
中里1				地蔵祭		観月祭						
中里2												
下里					地蔵祭	御大師法要					御伊勢講・稲荷祭	御大師法要
植木				祈禱時	鐘の織	八王子神社彼岸			八王子神社大祭			八王子神社彼岸

凡例 ○ 鐘の織 ■ 御伊勢講・春日講など ▲ 祈禱時・火の祈禱など ● 観月祭・十五夜祭など

資料4 町制施行後の年表(昭和12年~平成29年)

昭和12年	4月	町制施行(平川源市町長、甲斐光次助役、野口宇一収入役)
13年	4月	国家総動員法公布
14年	2月	湯前町警防団を設置
15年	10月	国勢調査 人口5・899人
16年	4月	湯前尋常高等小学校を湯前国民学校と改称
	11月	菘谷ため池築造起工式
	12月	太平洋戦争勃発
18年	2月	人吉市他6町村球磨川分郷開拓団建設組合設立
	12月	湯前~妻間に省営貨物自動車開通
20年	8月	ポツダム宣言受諾 終戦
21年	6月	湯前~妻間にバス開通
22年	4月	湯前国民学校を湯前小学校に改称
	5月	新憲法施行
	10月	国勢調査 人口8・349人、公民館条例制定
23年	3月	湯前青年学校廃校
	12月	菘谷ため池工事竣工
24年	6月	公民館開設
25年	1月	第1回成人式および記念植樹挙行
	4月	湯前小学校から出火 第2校舎を残し全焼・出田了校長が殉職
	10月	国勢調査 人口8・499人
26年	9月	湯前小学校第1校舎、第2校舎西側竣工
	10月	<u>ルース台風により明導寺阿弥陀堂九重石塔が倒壊</u>
27年	7月	国鉄バス人吉駅~湯前間開通
	10月	湯前小学校校歌・校旗制定

- 30年 4月 湯前小学校講堂落成
- 10月 [国勢調査 人口8・768人](#)
- 31年12月 戦没者慰霊塔建立
- 32年 8月 湯前小学校プール竣工
- 33年 9月 仁原分校開校
- 34年 9月 明導寺阿弥陀堂解体復元工事竣工
- 35年 1月 市房ダム完成 (総工事費40億円)
- 10月 [国勢調査 人口8・622人](#)
- 37年12月 町制施行25周年記念式を挙行、井上微笑の句碑建立
- 39年 3月 簡易水道完成 800戸に供給開始
- 10月 東京オリンピック開催
- 40年10月 [国勢調査 人口7・471人](#)
- 11月 湯前中学校がNHK全国学校器楽コンクール・器楽合奏の部で
全国大会出場 (翌年も連続出場)
- 41年 3月 農村集団自動電話架設完了・通話開始
- 42年12月 仁原分校廃校
- 43年11月 「湯前町史」発行
- 44年 1月 湯前農協出荷場落成
- 5月 湯前町青果市場落成、仁原川揚水事業竣工
- 45年 2月 町章決定
- 5月 役場庁舎竣工・庁舎移転
- 8月 「山のこだま」映画制作 (中学校音楽部がモデル)
- 10月 [国勢調査 人口6・634人](#)
- 役場庁舎・町民会館・湯前中学校体育館落成式
- 11月 湯前中学校が全国学校音楽リード合奏大会で最優秀賞を受賞
- 46年 7月 下村婦人会市房漬加工場落成

- 47年 6月 特別養護老人ホーム開所
- 48年 4月 古淵橋完成・開通式
- 49年11月 湯前小学校100周年記念式典
- 50年 3月 湯前農協・YM農協合併 湯前町農業協同組合発足
- 10月 国勢調査 人口6・163人
- 52年 5月 国道219号横谷トンネル着工
- 53年 3月 都川橋開通
- 昭和55年10月 国勢調査 人口6・036人
- 56年 9月 湯前中学校校舎改築落成
- 11月 横谷トンネル開通
- 57年 3月 B & G財団湯前海洋センター完成
- 59年 8月 湯前小学校校舎 改築落成
- 60年 5月 湯前線利用促進総決起大会
- 10月 国勢調査 人口5・085人
- 62年 2月 運輸省が湯前線を第3次廃止対象路線に承認
- 3月 横谷バイパス開通
- 4月 町制施行50周年記念式典を開催
- 平成 元年 3月 町立東部保育所落成
- 10月 第3セクターくま川鉄道株式会社が営業開始
- 11月 湯前町漫画フェスタ開催
- 2年 4月 多目的イベント広場「レールウイング」落成
- 10月 国勢調査 人口5・514人
- 3年 9月 湯前町農村環境改善センター落成
- 4年 4月 世界一の大水車「みどりのコットンくん」完成
- 11月 湯前まんが美術館落成

- 5年 3月 湯前小学校体育館落成
- 6年10月 第3セクター球磨プレカット株式会社設立
- 7年 2月 下村婦人会「大豆そぼろ」農林水産大臣賞受賞
- 10月 [国勢調査 人口5・351人](#)
- 11月 球磨地区広域農道「フルーティールード」開通
- 9年 3月 湯前町共同育苗センター落成
- 10年 3月 ゆのまえ温泉湯楽里オープン
- 10月 湯前町公式ホームページ開設
- 12年 4月 湯前町保健センター落成
- 13年 4月 公共下水道一部利用開始
- 14年10月 地域イントラネット整備事業落成
- 15年 2月 奥球磨地域合併任意協議会設立
- 15年 6月 奥球磨地域合併任意協議会解散
- 平成16年 8月 台風で国道219号が崩落
- 17年10月 [国勢調査 人口4・726人](#)
- 18年 4月 第1回ゆのまえ潮おっぱい祭り開催
- 11月 湯前中学校体育館落成
- 19年11月 町民栄誉賞第1号に山北幸氏
- 21年 2月 J Tと協働の森づくり協定を締結
下村婦人会の市房漬が「本場の本物」に認定
- 22年 3月 国道388号佐本橋改築が完了・開通
- 4月 ゆのまえ温泉湯楽里の新たな泉源を発掘・供給開始
宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」発生。町内でも防疫体制
- 10月 [国勢調査 人口4・375人](#)
- 23年 3月 湯前町情報通信システム落成。町内全域に光ケーブルを整備
- 11月 一般社団法人 湯前町農業公社を設立

- 24年 4月 町立南部・東部保育所が統合、「湯前保育所」スタート
- 10月 町制施行75周年記念式典開催
- 25年 1月 第1回公認奥球磨ロードレース大会開催
- 6月 湯前まんが図書館開館
- 26年 3月 くま川鉄道観光列車「田園シンフォニー」運行開始
- 7月 湯前駅本屋ほか国の登録有形文化財へ指定
- 27年 4月 人吉・球磨地域が「日本遺産」認定
- 5月 八勝寺阿弥陀堂復原工事竣工
- 11月 全国青年大会において湯前町青年団東方組太鼓踊り最優秀賞受賞
- 28年 4月 新学校給食調理場完成
- 10月 第40回全国育樹祭において「ふれあいの森づくり会長賞」受賞
- 29年 2月 東方組太鼓踊り第17回地域伝統芸能まつり出演
- 3月 「湯前町歴史的風致維持向上計画」認定

資料5 参考文献一覧

■ 湯前町関係

- ・『湯前町史』湯前町 1968 年
- ・『湯前の文化財』第4版 湯前町 2005 年
- ・『湯前の地名と文化財』 - 地名と未指定文化財の調査 - 湯前町 1989 年
- ・『湯前の石造文化財』湯前町文化財調査報告第3集 湯前町 1998 年
- ・『湯前の古建築』湯前町文化財調査報告書第2集 湯前町 1990 年
- ・『広報ゆのまえ縮刷版 (S37.7 ~ S62.1)』 湯前町 1987 年
- ・『広報ゆのまえ縮刷版 (S62.2 ~ H24.4)』 湯前町 2012 年

■ 歴史文化遺産関係

- ・『熊本県歴史の道調査—人吉街道—』熊本県文化財調査報告第66集
熊本県教育委員会 1984 年
- ・『熊本県歴史の道調査—球磨川水運—』熊本県文化財調査報告第99集
熊本県教育委員会 1988 年
- ・『県内主要寺院歴史資料調査報告書 (三) 人吉・球磨芦北・水俣地区』資料篇
- ・『県内主要寺院歴史資料調査報告書 (三) 人吉・球磨芦北・水俣地区』図版篇
熊本県立美術館 1984 年
- ・『奥野城跡主要地方道「錦-湯前線」改良工事に伴う埋蔵文化財調査』熊本県文化財調査報告第
92 集 熊本県教育委員会 1987 年
- ・『中世等文化遺産保護対策調査事業報告書』 熊本県教育委員会 1996 年
- ・『潮山・クノ原遺跡 熊本県農政部ふるさと農道建設に伴う埋蔵文化財調査熊本県球磨郡湯前
町所在』熊本県文化財調査報告第179集 熊本県教育委員会 1999 年
- ・『人吉・球磨地方古社寺建造物調査報告書』熊本県文化財調査報告第277集
熊本県教育委員会 2012 年
- ・『国指定重要文化財 城泉寺シンポジウム記録集』
湯前町・湯前町教育委員会 2014 年
- ・『九州仏 一三〇〇年の祈りとかたち』 福岡市博物館 2014 年
- ・『重要文化財 八勝寺阿弥陀堂保存修理工事報告書』
公益財団法人文化財建造物保存技術協会編 2015 年

・『日本遺産認定記念 ほとけの里と相良の名宝人吉球磨の歴史と美』

熊本県立美術館 2015 年

・『興福寺中金堂再建記念特別展 運慶』

東京国立博物館 2017 年

■ 幸野溝関係

・『復刻 幸野溝』 幸野溝土地改良区 1996 年